

1. 猫瓦とは何でしょうか

猫瓦は、両耳を立てた猫面対応の鬼瓦の一種で、棟の端を止める鬼瓦よりも簡略な瓦で、その姿が猫の顔の形に似ていることから猫瓦と呼ばれるようになったと言われます。

養蚕農家は、大切な蚕を守るために、ネズミの天敵である猫を飼って被害の減少に努めたり、猫面瓦をお呪いとして飾りました。

猫瓦は大きく分けると二つの瓦になります。一つは「猫の目鼻や植物を彫り込んだもの」もう一つは猫の文様に「水」の文字を刻み、蚕室などが火災に遭わないよう日除けの願いを込めたものがあります。いずれも養蚕農家の切実な願いが込められていると思います。

2. 現存する秋和地区の猫瓦

秋和地区は、約半数の蚕室造りの家が姿を消し、猫瓦も少なくなってきましたが、現在少なくとも7面の猫瓦が確認出来ます。

また今年4月に姿を消した滝沢秋暁生家には5面の猫瓦があり、上田市立博物館に寄贈され保管されています。

現存する猫瓦



① 吉沢家 605



〃 左 アップ



② 旧滝澤家 823



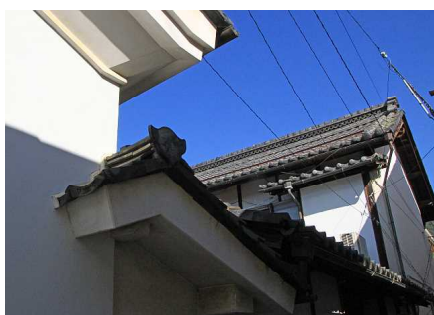
② のアップ



③ 旧滝澤家北側から 823



④ 中島家 762



④ の背景



④ の倉庫との関係



⑤ 中島家西側 762

秋和地区の猫瓦(2)



⑤ のアップ



⑥ 中島家 742



〃 左 背景全体



⑦ 中島家 472



参考 猫瓦の代わりに「水」を刻んだ棟瓦
 注) ○印の数字は猫瓦の枚数、よく探せばもっとあるかも知れません。

現在上田市立博物館に保管されている滝沢秋暁生家の猫瓦5枚の文様

